

ふるさとうらやす立志塾5周年

未来の浦安を担うリーダーの育成をめざす「ふるさとうらやす立志塾」は5年目を迎えました。今年も市立9中学校から27名の塾生が集まり、全6回の研修に参加しました。研修では、浦安の現状を知り、浦安の未来を考えたり、東北の被災地を訪れ、復興に取り組む方々からお話を伺ったりしました。

8月27日 立志塾での経験活かし活躍

5周年記念行事の第1部では、本年度の研修報告に続き、第1～4期の塾生6名による座談会を松崎市長、古在塾長を交えて行いました。座談会では「リーダーとしての自覚が高まった。」「積極的に行動し、友達を巻き込んで活動できるようになった。」など、それぞれが学んだことを語りました。また、今後の立志塾に期待することとして「被災地を肌で感じる研修を続けてほしい。」「浦安市ではチャレンジできる場に恵まれているので、卒業後も仲間同士で何か一緒にできる場があるとよい。」などの意見が上がりました。

古在塾長からは塾生に向けて「志を立てて実現していくためには、自分の目他



第1部 座談会

に『鳥の目』と『虫の目』を併せ持つことが大切。これからの成長に期待しています。」とのエールが送られました。

第2部のレセプションでは、塾生同士が交流を深めるとともに、記念行事に参加できなかった卒業生のメッセージを紹介しました。

主催者あいさつ(要旨)

立志塾は東日本大震災の年から始めた事業で、第2回からは震災で大きな被害を受けた東北を訪問して研修を行っています。今年は新たに福島第一原発から20km離れた広野町を訪問しました。5年間を振り返り、毎年、新たなチャレンジをし、進化していることを実感しています。5周年を機に各期の塾生が交流を深めるとともに、立志塾の経験を糧に、次代を担うリーダーとして活躍してくれることを期待しています。

(浦安市長・松崎秀樹)



第2部 レセプション

8月3日 うらやすの未来について考える

浦安の課題や強みを再発見し、改めて「ふるさと」を見つめなおすワークショップを行いました。

●●塾生の感想●●

- 色々な話を聞きながら浦安の未来について話をしたら、こんな未来もよいなあと考えられて、わたし自身が浦安に興味を持つ大きなきっかけになった。
- 解決策を考えるのではなく、未来の可能性を膨らませる話し合いで、すごく楽しかった。このようなことはぜひ学校でもやっていきたい。



8月19～21日 被災地の今を感じ、現地のリーダーから学ぶ 宮城県石巻市・女川町、福島県広野町

被災地の現状を見学し、復興に尽力するリーダーたちの話を伺ったことが、「ふるさと」や「リーダーの在り方」について考えるきっかけになりました。また、震災と原発事故に見舞われた福島県双葉郡を訪問し、ふるさとに貢献しようと活動する高校生と交流することで、強い意志を持つことの大切さを実感しました。

●●塾生の感想●●

震災地の実態を知り、3日間の研修を経て感じたことがあります。それは、みな立ち上がる力を持っているということです。それを高め、まとめていくのがリーダーの仕事で大切なことだと思います。浦安に戻った時、感じたことや実態をよりわかりやすく伝えることが私たちのやるべきことだと考え、積極的に活動したいです。



津波により大きな被害を受けた大川小学校跡



福島県立ふたば未来学園の高校生との交流



町の復興に尽力する女川町のリーダーと